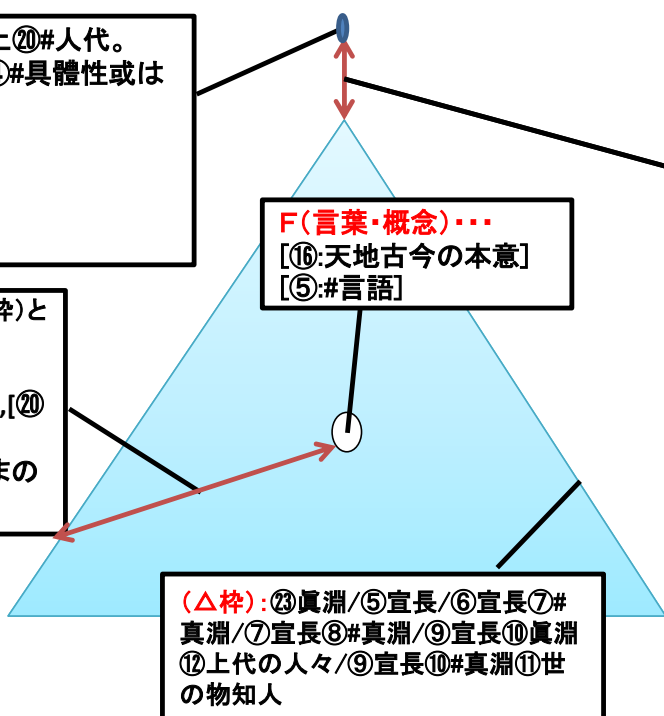


小林秀雄著『本居宣長』：四十五章主題《『祝詞考』等で、眞淵が「無理な解」をするのは、「天上の国(神代)」とは不合理であると言ふ考へから、脱却出来ない爲》その「關係論」的纏め。

②#古学④#神代⑯人の上⑳#人代⇒からの關係:②の②は,[④といふも名の異なるのみにて,同じく⑯なるべき]事,といふ考へに貫かれてゐた。この考への裡で,⇒[⑯:天地古今の本意]⇒彼の⑯の考へ(⑳的考へ?)が熟したと確信した時,これを,[②を盡て,④をうかがふ]といふ言ひ方と言つた⇒②眞淵。
①言辭(古書の註釋/#古言の語釋)の道②#上つ代③事物④#具體性或は個性⇒からの關係:①を探る⑤の眼には,終始,何の曇りもなかつたと見ていい。#訓詁の長い道を徹底的に辿つてみた,⑥の何一つ貯へぬ#心眼に,②の③の#あつたがままの④が,鮮明に映じて來た⇒⑤宣長。
②#上つ代③事物④具體性或は個性⑤#言語⇒からの關係:#心眼に直觀される,②の③の意味合なり價值なりが,そのまま承認できない理由など,⑥には,何處にも見當りはしなかつた⇒[⑤:#言語]⇒それが,⑦の場合となると,⑦の眼前で,⑤は,[あつたがままの④]まで裸になつて見せなかつた⇒⑥宣長⑦眞淵。
④#古事記⑤古事記#神代⇒からの關係:⑧は,④の訓詁の仕事には,遂に手を付けなかつた。⑧が遺したのは,⑤の假名書に過ぎなかつたが,⑦は借覽して,その訓讀(假名書)を讀んだだけで,もし⑧が④の#訓詁の仕事に,本氣に這入つて行つたら,どういふ事[#古言のふりの語釋不足]になつたかを,⑦は看破してゐた⇒⑦宣長⑧眞淵。
②眞淵著[祝詞考]③下心⑤言葉⑥古言⇒からの關係:②にも,[自己流解釋]があるのを,⑨は暴露してゐる。何故⑩は無理な解を考へ出して誤るのか。⑨は,③あつての事と見る。⑫の間で取交はされた⑤が,⑥に鋭敏な⑩に,何故,素直に信られなかつたか⇒⑨宣長⑩眞淵⑫上代の人々。
②#祝詞考⑦#天上の国(神代)⇒からの關係:②註釋文にも,⑩の[#無理な解]があるのは,⑨に言はせれば,⑪が泥(なず)んでゐる。⑦とは不合理であると言ふ考へから,脱却出来ないからだ。無理な解で,讀めば讀める,となれば,不合理は餘程緩和されると。それにしても,⑥を前にして,何といふ曖昧な態度だらう⇒⑨宣長⑩眞淵⑪世の物知人。

(物:場C')...②#古学④#神代⑯天地古今の本意⑯人の上⑳#人代。
①言辭(古書の註釋/#古言の語釋)の道②#上つ代③事物④#具體性或は個性。
②#上つ代③事物④具體性或は個性⑤#言語。
④#古事記⑤古事記#神代。
②眞淵著[祝詞考]③下心⑤言葉⑥古言。
②#祝詞考⑦#天上の国。

E: [F(言葉・概念)との附き合ひ方・用法]...「So called」Fと(△梓)との距離獲得(Eの至大化)。
~~~~~  
\*「彼の⑯の考へ(⑳的考へ?)が熟したと確信した時,これを,[②を盡て,④をうかがふ]といふ言ひ方と言つた」。  
\*「それが,⑦の場合となると,⑦の眼前で,⑤は,[あつたがままの④]まで裸になつて見せなかつた」。



からの關係(D1の至大化)

\*「②の②は,[④といふも名の異なるのみにて,同じく⑯なるべき]事,といふ考へに貫かれてゐた。この考への裡で」。  
\*「①を探る⑤の眼には,終始,何の曇りもなかつたと見ていい。#訓詁の長い道を徹底的に辿つてみた,⑥の何一つ貯へぬ#心眼に,②の③の#あつたがままの④が,鮮明に映じて來た」。  
\*「:#心眼に直觀される,②の③の意味合なり價值なりが,そのまま承認できない理由など,⑥には,何處にも見當りはしなかつた」。

\*「⑧は,④の訓詁の仕事には,遂に手を付けなかつた。⑧が遺したのは,⑤の假名書に過ぎなかつたが,⑦は借覽して,その訓讀(假名書)を讀んだだけで,もし⑧が④の#訓詁の仕事に,本氣に這入つて行つたら,どういふ事[#古言のふりの語釋不足]になつたかを,⑦は看破してゐた」。  
\*「②にも,[自己流解釋]があるのを,⑨は暴露してゐる。何故⑩は無理な解を考へ出して誤るのか。⑨は,③あつての事と見る。⑫の間で取交はされた⑤が,⑥に鋭敏な⑩に,何故,素直に信られなかつたか」。  
\*「②註釋文にも,⑩の[#無理な解]があるのは,⑨に言はせれば,⑪が泥(なず)んでゐる。⑦とは不合理であると言ふ考へから,脱却出来ないからだ。無理な解で,讀めば讀める,となれば,不合理は餘程緩和されると。それにしても,⑥を前にして,何といふ曖昧な態度だらう」。